

令和6年度 学校評価総括表						香芝市立関屋小学校			
教育目標		社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を備え、「思いやりの心と社会を生き抜く力」を身につけた児童の育成に努める。					評価		
運営方針		確かな学力と規範意識、豊かな感性を身につけ、心身ともに健康な児童を育成する。					B		
前年度の成果と課題		本年度の重点目標							
コミュニティスクールとして、地域の方や保護者と協働して課題解決に向けて取り組むことができた。	・ 自ら学び、自ら考える力を意識し、基礎基本の定着等確かな知識・技能を習得させ、自主的・創造的な学習態度を育て、達成感を育成する。								
	・ 社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を備え、生命尊重の心や自然を愛する心、美しい物に感動する豊かな感性を育て、人権を尊重する人間性豊かな児童の育成を図る。								
ICT機器等の活用や学習形態の工夫により、「わかる授業」を創造する。	・ たくましい心身育成のため、体育学習、体力向上、健康増進への取組を推進し、生涯への繋がりを図る。								
	・ 豊かな自然や文化・伝統・先人の知恵に学ぶ「ふるさと」を基盤とした教育を推進する。								
学校や地域等で、進んで挨拶をする児童を育てる。	・ 基礎学力の定着のために、学習規律を確立し、読解力の向上を目指した授業を展開するとともに、よりよい生活習慣を身に付けさせ、家庭学習の習慣化と充実を図る。								
	・ 子どもたちが、事故・不審者等の危険から自分の身を守るための具体的で実践的な態度を育てる。								
集団生活のルールやマナーを守ることの意義を繰り返し指導し、児童の規範意識を育成する。	・ 保護者や地域の願いを受け止め、連携し、地域と共にある学校づくりをする。								
	・ 自己研鑽に努め、今日的課題の克服のため、専門職にふさわしい資質の向上を目指す。								
教育活動や分掌	評価項目	評価の観点			児童	保護者	評価	成果と次年度への課題・対応	学校関係者評価
教育目標・計画	教育目標	1	学習指導要領や「学校教育の指導方針」等を踏まえた教育目標や経営方針を理解しその実現に向けて取り組んでいる。	3.19	3.16	B	学校教育目標や学校経営方針から、教員組織で大切にしていきたいことやどんな学級・学校を創っていくのか意識できるように、児童には朝会で、保護者には通信等で、教員には会議や終礼で伝えてきた。	Bの評価が多く、厳しく評価しすぎていないか。（評価の平均点の9割である3.6と設定したためAが少ない。）この評価の仕方で行くと決めたら継続することが大切である。今年度より、児童、保護者、教員が評価アンケートに回答し、それぞれの回答が大きくずれていないか、大きな認識のずれはないかみるために学校評価に入れた。点数の低い所はどうしてなのか振り返る必要があり、その手立てが来年度につながる。「せきやっ子」に簡易版のアンケート結果とグラフ、振り返りがあり、それが分かりやすかった。（8割以上の肯定的意見が多い。）学年だよりや学校便りを定期的に出して、学校での様子を知らせてくれている。わかりやすい。	
	組織運営	2	学校の課題や今日的な教育課題に対応するため、昨年度の総括を踏まえ、組織で新たな提案や改善を出しながら取り組んでいる。			B	昨年度の総括から何を重点的に改善していかなければならないのか年度当初にもっと明確にしていかなければならなかった。そのために数値で比べるこの総括表に変更した。		
		3	企画（運営）会議や学年会議、分掌会議を定期的に行き、組織的な運営を進めている。			B	チームで動く分掌であったが、どこをいつ改善していくか明確にして取り組むとよりよい。教員だけでも中間の学校評価をするか？		
	地域連携	4	地域や保護者、コミュニティからの意見を学年や分掌で共有し、改善に活かしている。		3.06	B	地域の方が手伝いに来られるときちゃんと対応できる教員であった。地域からの意見を取り入れながら柔軟に運営してきた。		
		5	家庭への様々な啓発活動（学校だより、HP、学年だより、保健・給食だより、家庭訪問、学級・学年懇談等）を通して、学校や学年・学級の取組等が地域や保護者に伝わっている。		3.43	B	問題事象に対し、地域や保護者と連携できる範囲まで協力してもらうことができ、なんとかやってこれた。いろいろな場面で学校の対応を説明する必要がある。		
	教育課程	6	めあてを明確にした授業づくりを大切にし、主体的・創造的に活動できるような教育課程を編成している。	3.33	3.12	B	指導者がめあてを明確にすることで1時間の到着点にむかうためのステップが明らかになる。児童も1時間で何をすべきか見通しをもって活動できるので継続して行っていく。		
学習指導	教室環境	7	教室で落ち着いて学習できる環境を整えている。	3.32	3.27	B	教室の整理整頓、掲示物の管理、机椅子の高さ調節などを徹底し、落ち着いて学習できる環境を整えることができている。教室の鍵や床板の修理もしていただき、環境を整えることができた。	教室環境についてはいろいろと改修の必要な箇所があるが、先生方の手に負えない部分もある。市にも協力を頂きたいものである。（改修の予算がついたので、これから取り組んでいってもらえる。）関屋っ子ルールについては保護者が分かっているのかもしれない。もっと啓発していく必要があるのではないか。中学校に入るとワークブックなど自主的に取り組まなければならない場面が増えるので、家庭学習の習慣は小学校でしっかり身につけておくことが大切である。〇つけは自分でするので、答えを見て書いていてもわからないこととわかっている。本よりゲームやYouTube、スマホで遊ぶ子が多い現代社会。親が本を読まなければ、子どもも読まないだろう。学校では朝の読書や読み聞かせ、図書交換など心がけている。今後も本に親しむ取組を考えていってほしい。中学校では朝読書が定着している。本を読まないのでは知識も不足しているのか。皆が知っているような童謡も知らなくてびっくりした。関屋の児童は祖父母が近くにいたりするのでましだと思う。	
	学習規律	8	関屋っ子ルール等を活用し、学習規律の意識付けを図っている。	3.11	2.93	B	各教室に掲示し意識づけを行っているが、まだルールの徹底には至っていない。保護者への啓発と共に、週目標にして帰りの会で振り返るなど、教員も日ごろの授業の中で繰り返し粘り強く指導をしていきたい。		
	指導方法の工夫	9	わかる授業を心がけ、「わかった」「できた」という成就感を味わわせる授業を工夫している。 ・ 教育機器の使用、教材研究、学力向上	3.54	3.15	B	全校で見ると児童は「授業が分かりやすい」と回答している割合が高かったが、学年が上がるごとに「分かりやすい」の数値が低くなる傾向にある。学習に躓いている児童への個別支援も含め、学力向上に向けて指導力を高めていく必要がある。来年度は学力向上部会を中心に校内研究授業を充実させていく。		
	家庭学習	10	毎日適切な課題（宿題）を出し、家庭学習の充実を図っている。	3.51	3.26	B	家庭学習への取り組み状況は、概ね良好であるが、学習の定着を確実にものにするためにも、課題の内容や量を調整し、家庭学習が習慣となり、児童が主体的に家庭学習に取り組む仕組みづくりを検討していく必要がある。		
	読書指導	11	読書好きを増やし、読書量を増やしている。 ・ 朝読の徹底、読み聞かせ等の増加、読書環境づくり	2.97	2.1	B	学校での取り組みとしては、毎週金曜日の15分の朝読書時間の確保や、図書ボランティアさんの読み聞かせ、香芝市民図書館員さんによる読み聞かせ、図書委員会による読書啓発のための「読書」すごろくなどがある。しかし、この結果を見ると、読書の習慣がついていないこと、読書が好きな児童の育成には課題があることが分かる。この結果を踏まえ、次年度は、全校共通の読書通帳を作ること、今年同様、朝の読書の時間を確保することを学校として取り組みたい。		
	体力向上	12	児童の体力向上と運動の楽しさを感じられるような工夫に取り組む。	3.41	3.05	B	業間外遊びや駆け足、縄跳びチャレンジなどを通して運動に慣れ親しむ時間を確保している。また、学年に応じたカードを使用することで、意欲的に取り組む手立てになったと感じる。しかし、毎日の外遊びの様子を見ていると、特定の児童が遊んでいる。来年度は外で遊ぶ児童が増えるよう学校として取り組みを進めていきたい。		
人権教育	人権教育の充実	13	くらしの中にある様々な差別や生命の大切さについて、正しい見方や考え方を育てる。	3.45	3.35	B	学年に応じて教材を選んで学習したり、日常生活の中で気になることはその都度指導したりしている。今後も魅力的な教材を共有し、児童の実態にあわせて指導を積み重ねていきたい。	以前は登下校時に小さなことでいざこざがあったが、最近は減ってきた。道徳や学活の時間に教材を用意して、意見交換をしたり、話し合ったりして人権意識を高めている。ウクライナとロシアの戦争について資料を提示するのは難しい。（発達段階に合わせて話している）地域の戦争体験者の話を聞く平和学習を継続したい。	
	豊かな人間関係づくり	14	違いを認め合い、支え合うことのできるなかま集団を育成する。	3.22	3.05	B	行事や学級での活動の中で協力する楽しさを味わえるよう工夫したり、互いの良さを見つけて伝え合う活動を行っている。伝え合う活動には時間の確保が必要である。その時間を確保し活動を充実させたい。		

生徒指導	あいさつ運動	15	学校や地域で、進んで挨拶する子どもに育てている。	3.29	2.82	B	今年度は生活指導の重点目標として「挨拶の励行」をに取り組んできた。毎朝教師による立哨を行い、教師から進んで挨拶をしたり、地域の方やボランティアの方々からの挨拶を受け、児童はあいさつの大切さを感じている。しかし、児童の自己評価ほど、保護者や教職員は児童が進んで挨拶を行っているとは感じていない。できている児童もいるのだが、実際に行動に結びついていない児童も多い（立哨中の感想や地域からの意見）。来年度は、挨拶を実践できる行動力をつけるための取組が必要である。	家の方も挨拶してくれて、その後ろ姿から子どもたちは学ぶと思う。小学生より中学生がしっかり挨拶できているのではないかな。 家庭と学校には違いがある。今ははじめをつけて次の行動に移りにくい児童がいるので、呼びかけ続けていかねばならない。 友達に流されて一緒に不適切な行動をしてしまう案件が多かった。家庭と協力して、自律心を育てていかないといけない。 不登校傾向の児童にはそれぞれに事情をもっている。学校は保護者や本人と話すこともあれば、関係協力機関と話すこともある。市では「すみれ教室」で対応している。 昔は家にいてもすることがなくて学校へ行った方がましやという時もあったし先生が怖くて休めない時もあった。昔は親は先生の味方をしていた。今は親は子どもの味方である。親が子に気を遣いすぎてないか。子どもが自分でいろいろな問題を解決する力をつけてやらないと。学校では様々な出来事が起こるので、保護者にきちんと事実を伝えないと誤解されることもあるのではないかな。権利ばかり主張して義務を果たさない人もいるのではないかな。小さいときから家で話してやることも必要かと思う。 時代が違うと言われればその通りだが、今はスマホ中心に世の中が動いていてその対応が難しい。
	基本的な生活習慣	16	基本的な生活習慣を育てている。 ・時間厳守の徹底、言葉遣い、清掃	3.32	2.62	B	今年度、学校ではチャイムと同時に授業が始まるように習慣づけるなど、授業の規律を児童に身に付けさせてきたがまだ定着しない。また、清掃活動でも活動の振返りの時間を設けて活動してきたが指導者がいないと態度が変わる児童もいる。児童の学校の様子と家庭の様子の違いや、生活習慣をどのように育てていくのかを学級懇談会などで情報交換し、家庭の協力を仰ぎたい。	
	規範意識	17	関屋っ子ルールを活用したり、道徳や学活等で学習したりすることを通し、集団生活のルールやマナーを守る規範意識を育てている。	3.43	3.01	B	関屋っ子ルールを活用したり、道徳や学活等で学習したりすることを通し、集団生活のルールやマナーを守る規範意識は低いように思われる。学校では放課後の過ごし方や何故これはしたらいけないのか考える力をつけさせ、周りに流される児童を減らす。また、家庭の協力が不可欠である。	
	問題行動の対応	18	組織的計画的な取組、重点教材の設定を行っている。	3.6	3.12	B	問題行動が起こったときは学校は組織として情報を共有し、家庭訪問等早期に対応してきた。今後ともそういった対応が大切になると考える。	
研究・研修	研究・研修	19	研究主題「主体的に取り組む、学び合う児童の育成」～「読むこと」を大切にした算数科の授業づくりを通して～を意識して、研修や研究に取り組む。			B	今年度の研究主題は、前年度の児童の実態や県学力テスト等で見えてきた各学年の課題をもとに設定した。次年度も、「主体的に取り組む、学び合う児童の育成」を目指して、今年度の取組につながる形で、研修・研究に取り組みたい。今年度同様、放課後の職員のミニ研修やプログラミングや夏休み等の研修を通して、職員全員で、指導力向上や児童の学力向上に向けて取り組んで行きたい。	先生方が一生懸命に指導していて、児童が素直に話を聞いている。研修の時間は先生方が積極的に発言し、内容を深めている。ミニ研修を主体的に行うことができた。中学校は専門教科に関わるので小学校とはまた違う。プログラミングについては二上小と連携し、情報交換を行った。
安全管理	危機管理	20	食物アレルギーを有する児童に対して、指導体制や緊急対応の体制を整えている。			A	年度初めに、食物アレルギー対象児童の把握と基本的な対応について共通理解を行っている。夏休みに食物アレルギー対応訓練を毎年実施してきた。そのため緊急事態が起こった時の対応がスムーズにできている。	職員玄関周りの老朽化が激しいのではないかな。家庭科室の環境についても早く整えてあげてほしい。市の力を借りて早期に対応してほしい。
	施設・設備	21	学習の場、生活の場として、安全な環境の整備に努めている。			B	毎月10日に全職員で校内の安全点検を行っている。不具合や危険箇所があればすぐに修繕を行い環境整備に努めている。	
特別支援	個別の指導	22	一人一人の学び方の違いに配慮した指導や支援を行っている。			B	体制や学び方を試行錯誤しながら取り組んできた。方法・体制・より個に応じた学び方等、今後も児童のよりよい学びにつながるよう研修をし、教員間で共有していき、3.6ptを目標としたい。	特別支援児童だけでなく、弾力的運用や早急に対応する児童について、先生方は柔軟に対応してくれているのではないかな。
	組織的対応	23	児童実態交流や校内支援委員会、ケース会議により、児童の理解や指導、支援体制に生かされている。			B	巡回相談の積極的利用や特別支援Coへの相談は多かった。しかし特別支援Coの知識が少なく、支援を始めるまでに時間がかかった。今後はより早く、より専門的な支援を行い、3.6ptを目標として体制を整えたい。	
その他	生活習慣	24	毎日、朝食を食べ登校している。	3.76	3.81	A	ほとんどの児童ができており、保護者が送り出してくれている。朝からぐったりはいない。	朝食を食べさせて登校させてくれる家が多く関屋の子どもはすごい。食べてこない子が他の小学校ではいると聞いている。朝ご飯を食べるのは基本の「き」。ゲームやYouTube、スマホなど養護の先生から1時間と言われているが、守れず早寝早起きの障害になっている子どももいる。家庭での問題なので、家庭でしっかり話し合ってほしい。
	生活習慣	25	早寝、早起きの習慣が身についている。	3.03	3.06	B	保健便りや学年だより、学級会等で睡眠の大切さを啓発していく。家庭の協力が不可欠である。	
	学校生活	26	学校生活を楽しく送ることができている。	3.63	3.47	B	仲間づくりを意識した学級経営を大切にし、児童の話に耳を傾ける教員でありたい。	

数字で評価しているので、他の学校と比較できないか。⇄比較する必要があるのか。それぞれの学校独自でよいのではないかな。（関係者評価より）

そう思う：4 だいたいそう思う：3
A：4～3.6 B：3.5～2.5

あまり思わない：2 思わない：1
C：2.5未満

校長の判断で4点の9割である3.6以上をAと設定した。3と2の中間以上をBと設定し、2.5未満は来年度への課題とし、原因と対策を考える。